環境部会資料

〈素案〉

鳥羽川(粟野地区)の植生

～ 故郷には、どんな草花が生えているのでしょう?! ～

環境学習や保全の参考に活用しながら、継続的に情報を寄せ合いましょう。

【5.5.9】

◀キバナアヤメとノバラ(石田川の合流地点の河川敷の水際景観)

【2.10.3】

◀ヒガンバナ(桜橋下流の左岸堤防)

令和５年６月 10 日

岐阜市岩野田北まちづくり協議会

在来種

この報告書では、おおむね明治期以前から日本に生息する種類をいう。

▲スミレ
【4.4.5】

▲ノジスミレ
【4.4.5】

▲白花スミレ
【4.4.21】

キツネアザミ
【5.5.8】

▲チガヤ
【5.5.9】

▲ナワシロイチゴ
【5.5.8】

▲ノバラ
【5.5.9】

▲ヨモギ
【5.5.8】

▲タケニグサ
【5.5.8】

▲チチコグサ
【3.10.29】

▲ギシギシ
【5.5.17】

▲カワラヨモギ
【5.5.9】

▲ツルマンネングサ
【5.5.9】

▲コオニタビラコ
【5.5.9】

▲セイヨウタンポポ
【4.3.25】

▲ギシギシ(紅葉)
【5.1.28】

ヨウシュヤマゴボウ
【4.10.20】

▲オオマツヨイグサ
【4.8.5】

▲ヒメコバンソウ
【3.5.23】

▲コバンソウ
【5.5.8】

カラスノエンドウ
【4.4.4】

▲ナズナ
【4.4.8】

▲ヒメオドリコソウ
【4.3.24】

▲ホトケノザ
【4.3.25】

▲キランソウ
【4.4.5】

▲トキワハゼ
【4.3.25】

▲ヘクソカズラ
【4.8.9】

▲ツユクサ
【3.8.27】

▲イタドリ
【3.9.25】

▲ホトケノザ
【5.3.11】

▲ノコンギク
【3.10.17】

外来種

この報告書では、おおむね比較的新しい年代に国外から持ち込まれた新帰化植物をいう。

▲ヘビイチゴ
【4.4.13】

▲センニンソウ
【3.9.4】

▲カワヂシャ
【5.5.9】

▲ヒサウチソウ
【5.5.8】

▲セイタカアワダチソウ【4.10.20】

▲ツボミオオバコ
【5.5.9】

▲タカサゴユリ
【3.8.30】

栽培種

家庭や田畑で栽培されていたものが何らかの理由で堤防に進出した品種も見られます。

▲アメリカフウロ
【4.4.8】

▲ベルベットピンク
【5.5.23】

▲ナヨクサフジ
【5.5.8】

▲イモカタバミ
【5.5.8】

▲オキザリス（トリアングラリス【5.5.9】

▲アヤメ
【5.5.2】

▲無休菊（スパニッシュデージー）【5.5.8】

▲ツルニチニチソウ【5.5.9】

▲アップルミント【5.5.8】

▲ニラ（後方はヒガンバナ）【4.9.25】

▲ジャーマンアイリス【5.5.9】

特定外来種

外来植物のうち、特に生態系などに被害を及ぼす恐れがあり、法律で、栽培・移動等に規制がかかります。地域にも侵入しています。

▲オオキンケイギク【5.5.9】

▲アレチウリ【4.10.16】

▲オオハンゴンソウは、団地近くで見かけたことが。

現況から見える課題と注意したいこと

●**クズ**や**ススキ**など昔ながらの固有種も繁茂していますが、子どもの頃にみかけたことのない外来種(新帰化植物)が数多く登場しています。●法律で栽培などが禁止されている特定外来種の**オオキンケイギク**は、鳥羽川や原川沿いに群落がみられます。県では自治会回覧用のチラシが作成されるなど、警戒すべき植物とされ、地域での共通認識が必要です。特定外来種では、**アレチウリ**も数株が粟野台付近の民有地に見られます。●特定外来種ではないものの近年見られるようになった外来種の中で、数株の**ヒサウチソウ**を発見しました。半寄生植物なので、生態系に影響を及ぼすことが懸念されています。●また、**ナヨクサフジ**は、10年ほど前から、急速に繁殖エリアを広げています。見た目にきれいな上、レンゲのように根粒バクテリアを持ち、土にすきこむと分解して施肥効果が高まる一方、蜜もレンゲ以上に採れると言います。さらに、雑草を寄せつけない力が強力であると言われます。それだけに、在来植物を駆逐する恐れを危惧し、根から引き抜くことを呼びかける環境団体もあります。

●川沿いは住宅地だけに、栽培種も見られます。スイセンやムスカリなどの球根植物やハーブの種類など丈夫な品種が育っています。栽培種だけに見応えがありますが、食草と似通った品種もあり、毒をもっているものもあり、食べられる草と間違えないよう注意が必要です。

▲セイタカアワダチソウに負けずと繁茂するススキ。

オオキンケイギク植生図

（2023.5.9 現在）

多年草のオオキンケイギクは、来年以降も生えます。種でも増えます。強靭なため、在来の野草を駆逐し、景観を一変させるため、特定外来種として栽培等が禁止されています。

▲黒木橋下流。堤防脇に生えている株。

▲寺内橋のたもとに生えるオオキンケイギク。群落を形成しつつあるが、除去作業で近づくのは危険。

※植えないこと、可能な範囲で除去することが望まれる。

※県が作成した特定外来種に関する自治会用チラシ参照

特定外来種だと思いきや、準絶滅危惧種でした!!

“カワヂシャ”が生えていました。

準絶滅危惧種は、植物では、シラン、チョウジソウ、フジバカマなど、動物では、タニシ、フナ、ドジョウなど。

【市環境保全課に確認したところ、植物の専門家の見解が寄せられました】

・カワヂシャは河川や水路、池等に生育する植物で石田川流域にも多数生育しています。
・全国的には、環境省レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されていますが、岐阜市を含め岐阜県内には多数生育しているためレッドリスト(絶滅危惧種)には選定されていません。
・岐阜市内ではカワヂシャ、特定外来種オオカワヂシャともに生育が確認されています。
また、岐阜市内でも両種が混生するような場所では、雑種のホナガカワヂシャと思われる個体も見つかります。
・これまでのところ石田川において市の調査でオオカワヂシャは確認されていませんが、今後侵入する事も考えられます。これからもカワヂシャを見守っていただければありがたいです。

どこが違う?

在来種のカワヂシャと特定外来種のオオカワヂシャはよく似ています。見分け方は、鳥羽川の個体は、花径が3～4mmですが、オオカワヂシャは、花径が7mmほどで、花色の薄紫がやや濃いこと、葉の縁のギザギザが細かいことなどの違いが見られます。両者が交雑したホナガカワヂシャ(カワヂシャよりやや大きめの赤っぽい花)は繁殖力もあり、遺伝的かく乱を起こします。

▲特定外来種のオオカワヂシャ

▲交雑種のホナガカワヂシャ